

「主に立ち帰るならば、主は憐れんで下さる」

(イザヤ書 55 の 6-7 より)

主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。  
主に立ち帰るならば主は憐れんでくださる。  
わたしたちの神に立ち帰るならば豊かに赦してください。

Seek the LORD while he may be found; call on him while he is near.  
Let him turn to the LORD, and he will have mercy on him, and to our God, for he will  
freely pardon.

だれでも何かを求めている。乳飲み子はミルクを、また子供は母親の愛や友だち、あるいは遊び道具を、そして成長すると仕事や富を、将来のよき家庭を、あるいは健康、病のいやしを、人から認められること等々。そのようななかで、ここに言われているように、神を求める人は、きわめて少ない。とくに日本においては周辺の中国やロシア、韓国、台湾、フィリピンなどの国々よりはるかに唯一の神を信じている人は少ない。それゆえ、神に求めることがない人が圧倒的に多い。いかなる人をも受けいれてくださるような愛の神などいない、と考えるとき、私たちが直面する苦しい問題や重荷が心にふかくのしかかるほど、どこに何を求めたらいいのか分からなくなる。

神は目には見えないうえに、愛と正義の神などいないように見える現実が至るところにある。しかし、そのただ中から神がたしかにおられることを実感し、信じる人たちは世界中で起こされてきた。現在でも同様である。

現在どんな状況にあっても、またどんなに過去に罪を犯してきた歩みであっても、開かれている道がある。それが、ここに言われている神を求め、神に向かって叫ぶ道である。

天地創造をされていまでも万物を支えておられる、神が私たちを見守ってくださっているのなら、どんなときでも恐れることはない…、それゆえに、聖書では、繰り返し「恐れるな！」と言われている。

神に心の方向を転じること、それはしばしばこの箇所のように「立ち帰る」と訳されている。この原語の意味は、英訳にも見られるように、「転じる、方向転換」であり、ここで言われているのは、神へと心の方向転換をすることである。(turn to the Lord)

人間を見つめていたら、そこには救いはない。ますます事態は悪化する。「私を仰ぎ望め、そうして救いを得よ」(イザヤ 45 の 22)といわれていることと同じことが強く勧められている。

このように、人間の根本問題の解決のために、実はきわめて単純な道、だれにでも、しかも

いつでもできる道が備えられている。そうすれば豊かな恵み、私たちの消すことのできない罪の数々をも赦し清めて下さる。

毎日の生活のなかで接する自然のたたずまい、青空や星の輝き、風のそよぎ、草木の繊細さ等々、そこから主にも立ち帰る道が開けている。また、喜ばしいときも、主に心を転じて、自分の努力とか他人のおかげと思うより先に、まず神に心を転じて神の支えを感謝、そのうえで、具体的に関わりを与えられた人たちにも感謝する、そして苦しいときに、まただれもが分かってくれないようなつらいとき、いわれなき非難を受けるときにも、人間でなく、主に心を転じて神に助けを求め、みもとにその苦しみをゆだねる、さらにはすべての人に訪れる死が近づくときにも、さらに集中して主に心を転じて、天の国を仰ぐ。ここに、御国への道を歩ませていただく幸いがある。



シロバナ タチツボスマレ

徳島県小松島市 日峰山 2010. 3.31

このタチツボスマレは、白色の美しいものです。ふつうのタチツボスマレは淡い紫色で、春に山を歩くと最も群生などしばしば見られる最もなじみのあるスマレの種類と言えます。スマレにはたくさん種類がありますが、「スマレ」という植物名のものは、花の色は濃い紫色で葉にも特徴があります。これは、野山を歩いても

なかなか見つからないものです。

この写真の白い花のタチツボスマレは、近くの山の谷川沿いにただ一株だけひっそりと咲いていたものです。その山道は樹木の生い茂ったあまり日も当たらない道で、山仕事の人がわずかに通るくらいでほとんど歩く人もなく、しかもその山道から少し離れている草むらのなかにあるので、ほとんどだれも気付いていないと思われます。

これがタチツボスマレであることは、画面右下に少し見られる楕状の托葉(たくよう)があることで分かります。いままで何十年の間、春の野山でいろいろなスマレを見てきましたが、この白いタチツボスマレは、この写真のもの一つしか出会ったことがありません。

白い花びらは、天使たちの衣のようで、清められた御使いたちが神へのコーラスをしているかのようです。黙示録の著者が、神から天の国の状況を啓示され、数えきれないほどの人々が、白い衣を身に着けて、神とキリストの前で「救いは、神と小羊(キリスト)のもの！」と大声で叫んでいたということ、そして、私たち人間の目標は、このように清められ、あらゆるこの世の闇の力に勝利して、神とキリストを賛美するということにあるのだということを思い起こさせてくれるのです。(文、写真とも.YOSHIMURA)